

経営講座

「新：高知県で儲かる会社を創る方法」

第18回テーマ

高知県の地方自治体の力での「数多くの儲かる会社創り(地方創生)」はこうすればできる。

※他県の成功例より学べること。その2

「今は何もなくても成功できる。」について詳説する。

これまで他県の地方自治体の町長、地方公務員、住民による「数多くの儲かる会社創り」即ち「地方創生」の成功例を紹介したが、ここではこれらの成功例から学べることを詳説する。

私は「他県の自治体に出来て、高知県の自治体に出来ないことは無い」と確信する。

今は何もなくても成功できる。

うちの市町村は何も無いから「数多くの儲かる会社創り（地方創生）」は出来ない。よく聞く話である。これは単なる言い訳である。このような言い訳を言っている間は、絶対に成功しないのだ。

本大学では今までに「全く何も無いところからの成功例」として、青森県いなかだてむら田舎館村の田んぼアートやシンガポールのマーライオン像を紹介し、

たった一つしかないものを地方創生の成功に結びつけているのが、島根県海士町の魚介類、東白川村のヒノキ材、天童市の将棋、熱海市の観光だ。このうちの魚介類とヒノキは日本国中どこにでもある。

これらの成功事例から、何も無い自治体でも、「数多くの儲かる会社創り」即ち「地方創生」の成功は可能だということである。

従って、高知県下の何も無い市町村も希望を持って、この「勝利戦術」に取り組んで頂きたい。

何も無くても、シンガポールのマーライオンや青森県の田舎館村の田んぼアート等のように新しく創ればよいだけのこと。

< 龍馬社長大学 学長 奴田原 惇郎（ぬたはら・あつお） >